


YOUTUBE動画特典

# 鎮痛剤 副作用リスト



 のたびは「鎮痛剤副作用リスト」をお受け取りいただき誠にありがとうございます。動画内で解説した副作用が起こりやすい鎮痛剤の種類を提示しておりますので参考にしてみてください。

## 鎮痛剤副作用リスト

### □第10位 体重増加

【注意すべき鎮痛剤の種類】神経障害性疼痛治療薬（リリカ・タリージェなど）

際限なく体重が増えるわけではなく、そういう傾向があるという認識で良いと思いますが、頻度は低くないので長期的に内服する人は注意ですね。

### □第9位 ふらつき

【注意すべき鎮痛剤の種類】神経障害性疼痛治療薬（リリカ・タリージェなど）・トラマドール製剤（非麻薬性オピオイド）

これは転倒してしまうことを防ぐために、特に高齢女性で注意すべきと考えられています。

### □第8位 吐き気・便秘

【注意すべき鎮痛剤の種類】トラマドールなど（非麻薬性オピオイド）

トラマドールなどの場合は用量調節したり、徐々に慣れることもあるので、食事摂取が可能なレベルであれば、急にやめる必要はなく、主治医とご相談ください。

### □第7位 アレルギー

【注意すべき鎮痛剤の種類】すべての薬

アレルギーは体質、相性の問題なので、あらゆる薬で起こり得ます。大切なのは「どの薬でアレルギーが起こり、どの薬は大丈夫なのか」という情報です。把握しておきましょう。

### □第6位 肝臓の病気

【注意すべき鎮痛剤の種類】アセトアミノフェン・トラムセット（トラマドールとアセトアミノフェンの合剤）

肝臓は症状ではわかりにくいので、長期的に内服したり、多く内服しないといけないときは採血チェックも検討が必要です。

#### □第5位 喘息発作

【注意すべき鎮痛剤の種類】非ステロイド系消炎鎮痛剤(ロキソニン、ボルタレンなど)

NSAIDsの中でもセレコックスなどは比較的安全とされています。

#### □第4位 大量出血

【注意すべき鎮痛剤の種類】多くの鎮痛剤＋ワーファリン

ワーファリンを飲んでいる患者さんが特に注意したい副作用です。ワーファリンのコントロールが乱れるリスクがあることは念頭に入れておきたいですね。

#### □第3位 腎臓の病気

【注意すべき鎮痛剤の種類】非ステロイド系消炎鎮痛剤(ロキソニン、ボルタレンなど)

肝臓と同様、腎臓も症状に表れにくいので、長期的に飲む、大量に飲む必要があるときは注意ですし、もともと腎臓の働きが落ちている人は特に注意です。

#### □第2位 胃腸の病気

【注意すべき鎮痛剤の種類】非ステロイド系消炎鎮痛剤(ロキソニン、ボルタレンなど)

胃潰瘍で入院や手術が必要になるようなことがないように、腹部の症状は要注意です。

#### □第1位 痛みがマスクされる

【注意すべき鎮痛剤の種類】よく効く痛み止め全般・効き過ぎるのは特に

痛み止めを飲んで「無理をする」、患部に負荷をかけることは、根本手金は悪化するリスクがあるという認識をしたいと思いますね。

## 肩の治療をする上で絶対に外せない7つのルール

肩の治療は**痛みとの戦いになりやすく**、かなり難しいことがあります。患者さん自身も痛みとどう付き合っているのか、精神的にもかなり落ち込んで僕の外来を受診される患者さんも少なくないです。そんな方々にとって、少しでも助けにならないかと思い、短い時間で読み切れる電子書籍を作成しました。ぜひ、こちらから受け取っていただけますと幸いです↓

[「SHOULDER RULE」肩の正解へ導く7つのルール](#)

